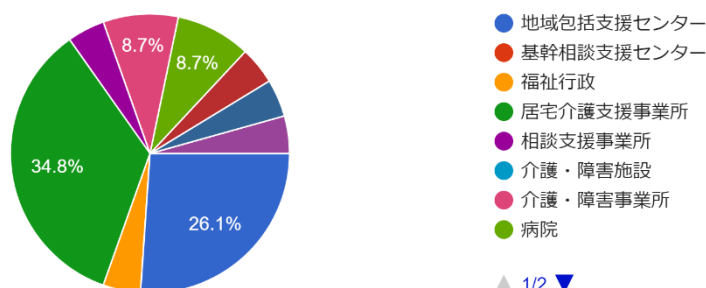


R5/8/17 開催 本人の権利から考える「本人主体の事例勉強会③」振り返り

職種

23件の回答



|   |
|---|
| 今日の、事例を通して学び、思ったこと、気づいたこと。  |
| 改めて、コミュニケーションについて考える機会になりました。相手にもっと興味を持って、意識的にコミュニケーションをとって行きたいと思いました。  |
| 入院中は病気の診断、治療、看護業務等に追われ、コミュニケーション軽視のケアが行われていることに気づきました。リハビリテーション、特にST,OTにコミュニケーション技法を磨いていってほしいと思います。退院後の地域では本人のネットワークの回復がコミュニケーション復活に役立つのではないかと思考しました。 |
| さりげない会話にはその背景が必要で、その方を知りたい親しくなりたいなあと思う気持ちが大切だと改めて思いました。   |
| Cさんのように診断名や申し送り書があるとき、理解力が無いとか意向がとれないと決めつけてしまって、その方とちゃんと向き合っていなかった事を反省した。その方の障害を理解してその方にあったコミュニケーションの方法を考えていく事が大切と思った。                                |
| 患者や要介護者、利用者などである前に、一人の人であることを改めて認識し、普段の業務をすすめるためのやりとり以外にも、何気ないコミュニケーションは大切にしていきたいと感じた。  |
| コミュニケーションのつもりが聞き取りになっていることが数知れず心当たり、「はっ」とした次第です。  |
| 支援する側が「きつこうだろう！」という思いこみでの対応が多いのではないかと「待つ」ということが自分もなかなかできず、話を取り返して自分が喋ってしまう傾向が多々あるので今回良い気づきになりました。   |
| コミュニケーションについて今まで深く検討したことがなかったことに気づきました。人はコミュニケーションの手段を失うといろんなことに弊害が出てしまうのだと今更ながら思いました。  |

|   |
|---|
| <p>事業所にて、日常の中で本人主体ですすめる知識のもと支援していましたが、やはりその人らしさや支援者側の認識が足らず、時間内の業務をすすめていた場面を気付かされました。その方の環境での抱える生きづらさや思いや希望等の発信のしやすさを 日々機転を利かせその方らしさを豊富に表現できるようすすめていきたいと思います。</p>   |
| <p>普段の自分はモニタリングという業務は全うできていたかもしれないが、ただそれだけで、相手の事を知ろうという気持ちが欠けていたかもしれないと反省した。</p>  |
| <p>・認知症という診断や、こちらの提案にのらない方を、当人を前に困った人扱いし本人とではなく家族や支援者間でのみ話を行う場合がある。私たち自身が話を行う機会や能力を奪いメンタルダウンにつながっていたこともあったのではないかと振り返り反省しました。</p> <p>・こちらが知りたいことを「質問」していただけたかもしれない。その方にとっては、大変な時間だったかもしれない。普段からの何気ない会話も大事であることや、何気ない会話から自然に知りたいことが確認できるよう、質問攻めにならないよう気をつけていきたいと反省しました。</p> |
| <p>関わり方の工夫は本当に難しく、意向を言わない人には毎回悩みます。その人の立場に立って今一度考えてみたいと思いました。</p>   |
| <p>コロナ禍で他者との交流機会が減少し、言葉が出なくなってしまった人をたくさん見ており、関わる時には「この人になら話しても大丈夫」と思ってもらえるよう工夫をしてきたつもりでいた。しかし、当事者の立場に立った時、きちんと相手を理解しての言葉かけだったのだろうか？効果的な業務のため、自分の経験と勘で自己満足していただけたのではないだろうか？と振り返りができた。</p> <p>今回もまた、支援する側の関りを変えることでの「本人主体」を学ぶことができた。</p>                                    |
| <p>人と人がであり、会話・対話を積み重ねることが、その人（相手も自分も）の先の生活（人生）を豊かにするんだな。ということを通例を通して改めて気づいた。</p> <p>また、人は人と会話をするからこそ、成長できるということも振り返ることができた。</p> <p>「本人」に焦点をあて、本人の意向を聴こうとする姿勢を確認できてよかったと思う。</p>  |
| <p>アセスメント項目の④認知症と⑤コミュニケーション、似ているようで違うというか、コミュニケーションとしてどうか、というアセスメントの視点に気づきました。</p> <p>そもそもコミュニケーションの取り方って、人間それぞれで、ケアマネも利用者もみんな違うから、相性なんかもあると生まれると思います。そこを埋められるようなコミュニケーションスキルも上げたいと思いました。</p>   |
| <p>コロナ禍。働き方改革。人件費削減。SNSの進化。などで、いわゆる人間味のある（かつ面倒でもある）関わりの方が、減ってきている。</p> <p>会わずともリモート。電話よりメール。ムリ・ムダ・ムラを減らす。残業せず、仕事が終わればすぐに退勤。オンオフをはっきりして、個人の時間を大切にする。休日に会ったり連絡</p>  |

|   |
|---|
| <p>することもない。効率化が美德になり、正義になり、いつしか目的になる。<br/>そんな中でこそ、他愛もない話を確保したいなと思いました。</p>  |
| <p>手引きでコミュニケーションを確認、振り返る機会になり学びとなった。<br/>この人は～だからと決めつけないことや相手に興味をもつこと、知ることの良い関係性が作れるのではないかと思った。</p>   |
| <p>「あたりまえ」の主体は誰なのか再確認できた。皆さんが持っているコミュニケーションの技を分けてもらうことができた。</p>   |
| <p>本人と家族を丸毎支援する困難さを感じ、自身のケースワーク技術を見直したい。</p>  |
| <p>尿管結石と腎盂腎炎為、令和3年5月11日～7月19日まで入院していたが、入院してから自力歩行困難となり、言葉かけの反応も少なくなったCさんの事例についての勉強会だった。<br/>なぜ、Cさんは言葉かけに反応しなくなったのか、病気な面もあるが、環境面が大きい事が理解できた。入院中、職員の忙しさもあり、Cさんに対してのコミュニケーションが少なくなった事で、会話する気持ちや能力が失われてしまったと考えられた。具体的に、マスクをする事でしっかり顔を見れなかった事、難聴によって耳が聞こえにくかった事、親身になって対応してもらえなかった事等、様々な環境が影響を及ぼす事がわかった。<br/>日々の業務においても、別紙の[ケアプラン策定のための課題検討の手引き]を参考にしながら、利用者様やご家族様とコミュニケーションを図っていきたいと感じた。</p> |
| <p>コロナによる自粛生活の影響、高齢者に限らず 環境が人に与える影響について 改めて考えました。安全第一、生命優先で、感染防止のため接触を避け、距離をとることが求められる中で、自分は、その後の弊害について想定していなかったなと思いました。「リモート」「SNS」は便利ですが、言語を主としたツールだと思うので（視覚的に訴えるパフォーマンスがあるにせよ）非言語的コミュニケーションについてはカバーしきれない部分があるという事、病院や施設のリモート面会の限界について気づきがありました。</p>   |
| <p>コロナ禍によって、相手の顔や表情が分かりにくく、感情や身振りでのコミュニケーションがしづらいつ感じています。加齢に伴って生じる支障、病気や障害の理解が無い中、本人の意思が理解できたと、一方的な捉え方に気をつけようと思いました。</p>  |
| <p>利用者の状況変化を正しく捉えて、その原因がどこから来ているのかを分析的確な対応をとる必要性を学んだ。そのための課題把握に敏感になりより良い改善策を見い出すことが支援者の責務なるのだと痛感した。</p>   |
| <p>その他、思ったこと、感じたことなど。</p>   |
| <p>忙しいとか時間がないとかそういうことではなく自分の気持ちがぶれないことが大切で、そのためには、今日のような研修で、大切なことを学ぶことをつづけなくてはと。</p>  |

|   |
|---|
| <p>病気や障害がそうさせているといったことは、正しい知識を持たないといけないと感じた。曖昧な知識のまま関わってしまっているケースがあるように振り返りができたので、しっかりと知識を蓄えた上で向きあっていきたいと感じた。</p>   |
| <p>コロナ禍の時の事例であろうとなかろうと、普段の対応の仕方を工夫していれば良いことであり、今後もわかりやすい話し方相手の立場に立っての対応をしていきたいと思いました</p>  |
| <p>その人が言葉を発する意欲まで失うような関係性。悲しくなりました。大切にしてもらえ、とっていただけるような支援者になりたいです。</p>  |
| <p>グループワークにて、さまざまな職種のかたがたと短時間で会話ができ更に前向きになりました。ありがとうございました。</p>   |
| <p>使わないようにしているつもりなのに、つい難しい専門用語を事業者同士で交わしてしまい利用者に嫌な顔をされたなど、普段の関わりの中で気をつけなければならない事、配慮すべき事に気づかずに傷付けている事も多いのではないかとたくさんの反省点を共有できた。</p>   |
| <p>・急に会話、コミュニケーションなどはできず、普段から良好な関係性を築いていかなければならないことや、そのためにはその人のことを知ろうと努力していくことが大事であると改めて感じました。</p>  |
| <p>他職種でのグループワークで、様々な視点からの考えを聞く機会がとても刺激になっています。ありがとうございます。</p>   |
| <p>コロナ禍で、マスク越しの会話や面会ができない状況の中で、「本人を観る」ことは困難を感じた。自分自身の対話の技術や面談の際の基本を振り返ったり、工夫することを少しでもできていた自分をねぎらいたいと思う。</p>   |
| <p>グループの方が意見の受け止めがうまくて、楽しいグループワークでした。</p>   |
| <p>様々な業種の様々な職種の方々とお話できるので、世界が広がります。次回もどうぞよろしく願いいたします。</p>   |
| <p>コミュニケーションの基本スキルや、認知症などの障害の理解など専門的知識を持ったうえで 相手を「個人」「普通の人」としてみるのが 一番大事な事だと今回の研修で再認識しました。生活のし辛さ、病気や障害などは その人を形成する一部である事を忘れずに「自分のこととして考える」「相手のペースに合わせる」「効果を求めない」そして「待つこと」(自分はこれが苦手かも…)を常に意識していきたいと思います。ピアスーパービジョン! とてもいいと思います!</p> |
| <p>本人が主体であり、コミュニケーションの障害・問題を明らかにして、生活に支障をきたす詳しい状況を確認し、何が課題となるのか検討していこうと思います。</p>  |

利用者の言動を健常者目線で常に見ていないだろうかと自問された。何故、コミュニケーションが取れないのか、それはどこに問題があるのか？支援者としての関わり方として、工夫改善の余地があるものと考えて職務にあたりたいものです。